

スコア映画サロンのお知らせ vol.289



◆日時：2024年9月22日(日) 14:00~18:00

◆会場：名古屋国鉄会館
 (わからない方は10分前にスコアレに集合またはお問い合わせください)
 ※映画サロンは禁酒禁煙です。

◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

課題映画

- ▶ 夏目アラタの結婚
 (9/6よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)
- ▶ Chime
 (8/24よりシネマスコアレにて公開)

サロンメモ

所詮…という言葉が頭を駆け巡った。所詮メジャー作品 所詮人気タレント主演 所詮マンガの映画化。「ブルーピリオド」。お粗末な最終着地が映画を幼稚極まりないものにして。可否を知らせる掲示板を見ている主人公の表情がラストカットなら、決してひどい映画ではなかったろうに。主人公の恐ろしいまでのキャスティングミスはあれど、でもまあサロンでは意外と評価は低くなかった。私を含めて、期待値が相当低かった人が多くいた事もある。ビジュアル的によかったという声も複数あった。中身の解釈を楽しむ豊かな映画ではないけれど、こういった映画が作られ観客に受けるという、言わば外側の解釈や推察の意見は色々出て、そこに關しては大いに盛り上がった。

そもそもこんなサロン向きでない映画を何故課題にしたか?それは8月の作品不足に尽きる。夏休み時期は例年本当に大人が観る映画がなくなる。外国映画もシネコン系は壊滅。1本を単館系にするともう1本はシネコン系にせざるを得ない。そこで仕方なく浮かび上がったのがこれだったという次第。本当に他になくて、まさに窮余の策ならぬ窮余の作。

「ぼくの家族と祖国の戦争」は中身が豊かな映画で、これぞサロン向き。家族4人が並んで歩くラストカットには様々な意見が述べられた。単純に、だから日本映画は…だから外国映画は…と言う気はないけど、たまたま同じ回で並べてしまうとその差のため息をついてしまう。

今回は堤幸彦作品とスコアレでの黒沢清作品。実績派のふたりで、久々の日本映画2本立だ。どうかため息をつかせないでくれ。(小西)



8/25(日)	ぼくの家族と祖国の戦争	ブルーピリオド	九十歳。何がめでたい	フライ・ミー! トウ・ザ・ムーン	ルックバック	新米記者トロンチ 私やらねば誰かやる!	メイメイセンバー ゆれる真実	キングダム 大將軍の帰還
サロン参加者								
加藤 賢二	4	3						
山本 正明	5	4	3	4	4	3	4	4
横井 清	5	3		4	5	5		3
田中 健一	4	3						
斎藤 文彦	5	5	5					4
榊原 隆裕	5	3	4	4				
岡村 昌俊	4	3			3			
高橋 広河	4	3		5	4			
白石 麻由子	5	3						
三田 正継	4	3	4		5	2	4	4
林 美夕紀	5	3	4					
平林 正明	5	4						
加藤 千穂子	4	3						
井上 章	5	4		4			4	4
牧野 鐘徳	4	3		4	5	4	5	
小西 孝直 <small>(スコアレサロン代表)</small>	5	2					4	
坪井 篤史 <small>(スコアレ支配人)</small>			4	4	5	4		4
木全 純治 <small>(スコアレ代表)</small>			4	4	4			4

初めて参加される方は参加費無料! 10分前にシネマスコアレまでお越しください。